

特集

わたしを“啓く”場所

学習、行事、部活動、そして進路実現、こうした毎日の学校生活を頑張る碧高生1人1人が「碧南高校の魅力」です。今回は、そんな碧高の魅力を少しだけ紹介します。

進路実現



普通科 3年

田中 佑菜

碧南市立東中出身

私は、自分の進路を定めるのにかなり時間がかかりました。悩むことも多かったですが、高校での学習を通じ、国際問題について大学で深く学びたいと思い、進路目標を見つけることができました。

第一志望合格に向け、今の自分に一番必要なことは、英単語や文法、公式など、基礎を徹底的に身につけることです。英語や古典などの授業で行われている小テストが、一番私の助けになっていると思います。努力しただけ結果がついてくるので、日々の小さな積み重ねの大切さに気付きました。

合格できるか不安でいっぱいですが、どんな結果になったとしても後悔のないように、諦めず、一生懸命頑張ります。

学習



普通科 2年

長根 琥太郎

碧南市立南中出身

僕は将来医療系の職に就きたいという希望があり、加えて理型科目、特に数学が好きだからという理由で理型を選択しました。理型は人数が少なく少人数で授業を行うので、集中して授業に取り組みます。理型に進むと、1年次とは違い理型科目の時間がとても多くなるので、僕のように数学が好きな人や得意な人、理型科目に興味を持っている人はぜひ理型を選択してください。

理型が一番の難関となるのが数学だと思います。しかし安心して下さい。碧南高校では、テストの点数に応じて自分のレベルに合った授業を受けられるので、不安な人でも大丈夫です。僕自身も勉強を怠らずに頑張っていきたいです。

学習



普通科 1年

宮田 和葉

刈谷市立刈谷南中出身

私は「色々なことに挑戦する」を目標に、碧南高校普通科を選びました。入学当初は新しい環境に慣れることができるか不安だったり、クラスに同じ中学校出身の人が少なかったりと緊張していました。ですが、クラス全体で自己紹介を行った後、自分から勇気を持って話しかけに行き、たくさんの友達を作ることができました。私が「生徒会に立候補する」と言った時、友達が相談に乗ってくれてとても心強かったです。

これからも色々なことに挑戦し、努力し続けたいです。たくさんの友達や先輩方に会えたことで、今では毎日がとても楽しいです。碧南高校を選んで本当に良かったです。

進路実現



総合ビジネス科 3年

倉内 銀次郎

碧南市立東中出身

総合ビジネス科は、簿記や情報処理を中心とした専門科目の授業を展開しています。私は特に簿記に力を入れ、資格取得のために日々検定勉強を頑張っており、取得が非常に困難な日商簿記実務検定2級に合格することができました。総合ビジネス科は、専門性の高い科目の座学だけでなく、タイピングや帳簿の作成など、実生活や進路実現に役立つ力も身に付けることができます。私はこの学校で身に付けた力のおかげで、第一志望の企業から無事内定をもらうことができました。

就職することをゴールにしてしまわないように、残り少ない学校生活を無駄に費やすことなく有意義に過ごしていきたいです。

学習



普通科 2年

遠藤 真夕

碧南市立新川中出身

正直私は中学生の頃、今ほど意欲的に学習に取り組んでいませんでした。当時は勉強の必要性などをよく考えなかったし、何より勉強があまり好きではありませんでした。ですが、高校に入って自分の目標を持って時、一気に勉強に身が入るようになりました。

私が勉強する上で大切にしていることは、適度な緊張感を持って勉強し続けることです。学年順位を保つことはモチベーションに繋がると、集中力も上がります。また、常に具体的な目標を立てて勉強することも意識しています。

自分の思い描く将来を実現するために、たゆまぬ努力を続け、後悔しないように日々を過ごしていきたいです。

学習



総合ビジネス科 1年

村上 サスケ

知立市立知立中出身

僕は、就職するための多くの資格を取得するため、総合ビジネス科に入学しました。情報処理や簿記などの商業科目を勉強し、資格取得に向け先生方が分かりやすく教えてくださり手厚くサポートしてください。中には「得意」「苦手」だと思ふ教科もあり、苦手な教科について不安に思っていました。しかし、先生方が実施して下さる朝補習や授業内の小テストなどの検定対策のおかげで、今では自信を持つことができています。

また、定期考査や検定の難しさに諦めてしまいがちになることもありますが、友達、仲間と助け合い、互いに教え合っで多くの困難に立ち向かっています。これからの学校生活の中で、立ちほだかる壁を皆で乗り越えていきたいです。

部活動



総合ビジネス科 2年 [ソフトテニス部]

大柄根 由奈

西尾市立平坂中出身

女子ソフトテニス部は、部員24人で「明るく元気な言葉」を合言葉に活動をしています。

テニスは個人と団体戦に分かれています。時にライバルとして仲間として1試合1試合一生懸命助け合い、励まし合っで戦っています。私は特に、どんな時も笑顔で心がけて頑張っています。

今年度は、全三河の西三予選では6位、新人戦西三予選では4位となり、目標であった団体での県大会出場を果たすことができました。10月の末に行われた県大会ではベスト16となり、あと1歩でベスト8を獲得することができました。次は県ベスト8の目標に向かってチーム一丸全力で闘い、勝利を掴みます。新1年生の皆さん、ぜひ一緒に楽しくテニスを楽しみましょう。

部活動



普通科 2年 [男子バスケットボール部]

鈴木 陽呂

西尾市立寺津中出身

男子バスケットボール部は、体育館で週5回活動しています。部員は35人と少し多いですが、皆和気藪々と部活をしています。活動時間は限られますが、時間を上手く使えるよう、日々試行錯誤を重ね練習に励んでいます。僕たちのチームは部員同士の仲が良く、チームプレーが上手いので、その良さを生かし今後も頑張っていきたいと思っています!

夏は遅い時間まで活動するため学業との両立はとても大変で難しいですが、僕は一日一日の短いスキマ時間を効率よく使うことを意識し、日々勉強に取り組んでいます。大切なことは勉強も部活も同じです。学業と部活の両立をして、悔いのない高校生活を過ごしてほしいと思います。

部活動



普通科 2年 [吹奏楽部]

増田 結愛

西尾市立平坂中出身

吹奏楽部は、1・2年生の24名で日々練習に励んでいます。部内はいつも自然と笑顔がこぼれてしまうくらい温かい雰囲気ですが、練習の時は手を抜かず、いつも本番のつもりで合奏に参加し、妥協のない演奏を大切にしています。今年度もこの努力が実り、地区大会で1位、そして6年連続で県大会に出場することができました。楽しいことばかりではありませんが、コーチや先生、仲間の前向きな言葉にいつも助けられています。

私たちは、聴いている人がどうしたら楽しめるのか、心を動かされるのか常に考えています。人数が少ないことを言い訳にせず、そして歴代の先輩方の意志が絶えぬよう、これからも良い音楽を部員全員で作っていきます。

校長コラム

第9回

「セレンディピティ」

校長 鈴木 尚哉

今回は「セレンディピティ」という言葉についてお話をします。この言葉は「素敵な偶然に出会ったり、予想外の物を発見したりすること。」という意味で、イギリスの政治家・小説家であるホレス・ウォルポールが『セレンディップの3人の王子』という童話に出てくる3人の王子が旅で思いがけないことと出会い、新しい物事を発見していくといった話から、「思いがけない幸福を手に入れる力」という意味で作った造語です。「セレンディピティ」の例として用いられる3つの例を紹介します。1つめは「万有引力の法則」の発見です。ニュートンは木からリンゴが落ちるのを見ました。この偶然の出来事から「万有引力の法則」を見出したのです。2つめは「ペニシリンの発見」です。アレクサンダー・ Flemingは、ぶどう球菌の研究の中で誤って発生させた青カビの周りだけは細菌が繁殖しないことに気づき、そこから抗生物質のペニシリンを発明しました。3つめは「ポストイット」(付箋)の開発です。3M社の研究員であるスペンサー・シルバーは強力な接着剤を作ろうとして失敗し、粘着力が弱い粘着剤が出来上がってしまいました。しかし、同僚がこれを見て、「ある程度の粘着力があり、簡単に剥がすことができる」というメリットに気づき、ポストイットが生まれたのです。このようにセレンディピティとは、予期せぬ幸福や成功

を偶然手に入れる力のことで。しかしその前提として、自分の周りの事象を冷静に把握し、別の可能性に気づいた上で可能性を広げる力、たくさんのチャレンジや観察力、経験から意味を見出す知識、固定観念や自分の価値観だけにとらわれずに物事を判断する力が求められます。

次にセレンディピティを得るためのコツとして5点述べます。1つめは他の人と積極的に会話することです。自分が思ってもみない新たな状況が発生する可能性が出てきます。2つめは新しい挑戦をすることです。旅行や留学、読書、学校でのさまざまな活動に参加することで可能性が増えます。3つめは物事をよく観察することです。好奇心と冷静さを持って観察することで発見する力を身につけられます。4つめは知識を身につけることです。身の回りの出来事から気づきを得ることができます。5つめは自分の経済的な能力、環境などの前提を無視して考えることです。自分の周りの環境はその人の考えや可能性を大きく制約している場合があります。身の回りがあるさまざまなチャンスに気づく可能性を増やさなければなかなかセレンディピティは得られません。いつかセレンディピティが自分のもとに来るように、日頃から積極的に知識や経験を増やしてほしいと思います。

「総ビの学び」、味わえます

【総合ビジネス科 × 七福醸造・木村建設(株)・オレンジボックス】

オリジナル商品発売決定!



message
総合ビジネス科 3年 神谷 樹里 (碧南市立新川中出身)
西ノ原朱音 (碧南市立南中出身)

七福醸造主導で、地元企業と協働で商品を企画しています。第一弾にはベーカーリドゥークーと共同で新商品を開発しました。子どもにも興味を持ってもらえるかわいらしい見た目と誰でも食べやすい味、食感にまでこだわって考えた案を企業の方にプレゼンし、2品が採用されました。パンを手にとったお客様から直接「美味しかったよ」という嬉しい声を聞くことができ、とても良い経験になりました。現在は碧南海浜水族館とのコラボに取り組んでいます。班員皆全力で取り組むのでよろしくお祈りします!



message
総合ビジネス科 3年 新實さつき (西尾市立平坂中出身)
坂本 聖菜 (西尾市立寺津中出身)

木村建設株式会社・オレンジボックスの協力の下、新商品として「新食感! お芋のこんがりブリュレ」「夢たっぷりアニマルスペシャル」というクレープを開発しました。明石公園での限定発売のため、客層を意識し、子どもから大人まで楽しめるクレープになるよう試行錯誤を重ねました。PR動画の制作や広告宣伝などでも苦労することがありましたが、自信をもって販売できるクレープを完成させました。班のメンバーと協力し最後までやり切れたので、とてもやりがいを感じました。